

2022年4月17日(日)

主催：(一般社団法人)障がい児成長支援協会

共催：オネストリー株式会社

山内先生のオンライン特別支援講演会 《第3部》

意欲的に進んで取り組ませるための ポイントを教えます

- なぜ嫌がるのかを分析する「応用行動分析」
- 意欲的に進んで取り組ませるための環境設定や内容の工夫
- 意欲的に進んで取り組ませるための指導や支援の方法

(一般社団法人)障がい児成長支援協会 協会長

中部学院大学非常勤講師 山内康彦(学校心理士・ガイダンスカウンセラー)

なぜこの子は授業中顔を上げないのか？



「困った子」は「困っている子」

「困った子だ！」と嘆いている
のは、大人の勝手な視点

☆実は一番困っているのは

その子ども本人

子どもの困り感に寄り添うこと

×『どうして顔を上げないのだ！』

×『今は授業中だぞ！』

と叱ってみても状況はかわらない……

それどころか、指導者と子どもの心は離れて、今後の良い指導も受け入れなくなってしまう。保護者との信頼関係も崩れる。

……………では、どうしたらよいのか？

心理検査の活用と応用行動分析の活用例

本来判定に使うためのものではない

☆K-A B C ・ K-A B C 2

☆田中ビネー

☆W I S C Ⅲ ・ W I S C Ⅳ

☆新版K式

☆なぜ顔を上げないか→



個の知的特性等を把握し、その高低やバラツキからその子に合った支援を考える材料にするもの

そもそも行動問題とは、

「問題行動・不適応行動・不適切行動」

などのことを言う。つまり・・・

その行動の現れ方が、その場の状況や周囲との関係において適切でない場合に問題とされる。

※問題を有している行動そのものを問題行動と言い。「行動問題」は、行動を引き起こし維持させている問題自体に注目した言葉である。

そもそも行動問題とは、

行動問題は、年齢や実態、周囲の状況によって変わってくる

※幼い子が女性職員に抱きついてても○。
しかし高校生は×

※休み時間のおしゃべりはよいが、授業中のおしゃべりはダメ

☆年齢や場に応じた行動が求められるからこそ、子どもたちは学び育っていくのである。

すなわち子どもの立場に立てば……

行動問題は、次のような学びの状態

1. 「未学習」

- ・ どのように行動するか学んでいない。

2. 「不足学習」

- ・ 学んでいるが、うまく行動できない。

3. 「誤学習」

- ・ 不適切な行動を学んでいる。

乱暴な行動をする子を例にとって説明すると…

1. 「未学習」なら

- ・ 友だちとかかわるときに、どうすればよいか学んでいないのかもしれない。

2. 「不足学習」

- ・ どうすればよいか分かっていても、十分にうまくできないのかもしれない。

3. 「誤学習」

- ・ 友だちとかかわる手段として不適切な行動を学んでいるのかもしれない。

※事の本質は、適切な行動の支援にある。

「思い込みの支援」や「あてはめの支援」は×
原則論の支援だけではダメ！

自閉症の子がパニック

→ひとまずは、無理をさせずに活動をひかえさせる。（時々で対応を変える）

しかし、パニックの原因が違えば、有効な支援も変わるはず。

ご褒美シールでやる気がでる

→全員に当てはまることではない

一人一人に合ったほめ方があるはず。

応用行動分析学がめざす
「積極的行動支援」とは……

単に行動問題を減らすことではなく
インクルーシブな環境における
QOL(生活の質)の向上である。
その中心的なアプローチが
積極的行動支援(PBS)
《ポジティブ・ビヘイビア―サポート》
子どもたちが持っている力を高める

積極的行動支援で大切にすること



- ①行動問題の軽減からQOLの向上
- ②「なぜその行動をするのか」の理解
- ③予防への焦点
- ④前向きな支援の重視
- ⑤包括的な支援の計画
- ⑥嫌悪的な支援方法の最小化
- ⑦環境や人々に適合した支援
- ⑧生活全般・ライフステージへの視点

行動が学習されるメカニズム ABC分析

①先行条件

A n t e c e d e n t

②行動

B e h a v i o r

③結果

C o n s e q u e n c e

行動が学習されるメカニズム ABC分析

①先行条件 担任がいる

A n t e c e d e n t

②行動 パニックを起こす

B e h a v i o r

③結果 抱きしめる

C o n s e q u e n c e

行動問題の理由

①注目

②活動や物

③感覚刺激

それぞれの生じる結果

となくなる結果が原因

行動問題の理由

①注目

「生じる結果」

- ・注目が少ない状況で、その行動をすると周囲の注目が得られる。

「なくなる結果」

- ・いやな注目がある状況で、その行動をすると、その注目がなくなる。

行動問題の理由

②活動や物

「生じる結果」

- ・欲しい物や活動が入手できない状況で、その行動をすると入手可能

「なくなる結果」

- ・いやな物や活動がある状況で、その行動をするとなくなる。

行動問題の理由

③感覚刺激

「生じる結果」

- ・することがない状況で、その行動をすると、感覚刺激が得られる。

「なくなる結果」

- ・いやな感覚刺激がある状況で、その行動をするとなくなる。

事例①の検討

友だちを叩いてしまうA君

○小学校1年生

『自閉症スペクトラム』

・言葉の後れがある

▲おもちゃが欲しいときに叩く

◎『貸して』『ちょうだい』と言えるようにする支援方法

事例②の検討

嫌いな食べ物を床に落とすB君

○小学校5年生

『ADHD』

・思いどおりにならないと暴れる

▲給食の時にひどくなる

◎『はじめから減らす』『残してよい状況をつくる』

事例③の検討

簡単に「できません」と応えるCさん

○小学校6年生

『LD』

・できませんと言えればやらなくてよい

▲めんどろなことはやらない

◎『できることからの出発』『ご褒美の工夫』『選択して取り組ませる』

山内の実践の中で考え出した結論

①できることから出発

②選択させて、自分で決める

③「やらせること」と「やらなくてよいこと」のメリハリをつける

「通常の教育」と「特別支援教育」の違いを一言で表すと……

《通常の教育》

できないことへのチャレンジ教育

※今までのできた自信があるからできる。

《特別支援教育》

できることからの出発教育

※やらせでもよい。まずは、
できた経験を沢山積むことで
自信となり自己肯定感が高まる



子どもたちにやらせる方法(1)

行動を起こすときの条件から考える

1. 楽しい おもしろい やってみたい
2. できる わかる 上達する
3. ほめられる 表彰される
4. こわくない 安全

(例) 宿題をやらない理由と
すすんで取り組ませるためには？

子どもたちにやらせる方法(2)

取り組ませ方の工夫

×親や先生が決める

- ・僕が決めたんじゃない

◎本人に選択させる

○選択するとは本人が決めたこと

○メリットとデメリットを事前に説明

×本人に考えさせる

- ・そうなるとは思わなかった
- ・わかっていたらやらなかった

もぐら叩き教育はダメ パート I

幹を見て、本質、原則で指導方法を考える

□ 厳しくしかること・徹底すること

・ 大人だったら警察に捕まること

・ 人に迷惑をかけること

■ ゆるすこと・ある程度見逃すこと

・ 警察に捕まらない 迷惑をかけない

・ 本人だけの問題

もぐら叩き教育はダメ パートⅡ

幹を見て、本質、原則で指導方法を考える

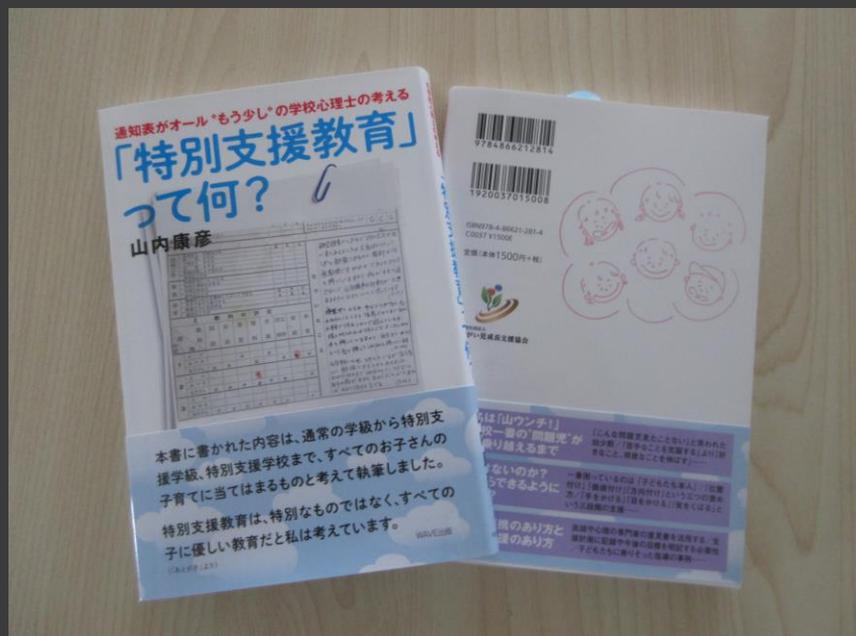
□絶対にやらせること

- ・ 大人になったらやること

■ゆるすこと・ある程度見逃すこと

- ・ 大人になってやらないこと

困り感を共感的に受け止め、早期から適切な支援を継続的に行うことが大切です



**特別な支援は、もはや特別なものではありません
全ての子どもたちにとってやさしい支援なのです**

ご清聴ありがとうございました。

4月からFMラジオで毎週放送 「山内先生のランチトーク」

毎週火曜日 12時～13時

① 「愛知北FM放送」で検索

② 下へ→「JCB Aで聴く」をクリック

③ 白い“▶マーク”で再生開始！

特別支援に関わる様々なお話を気軽に聴けます。